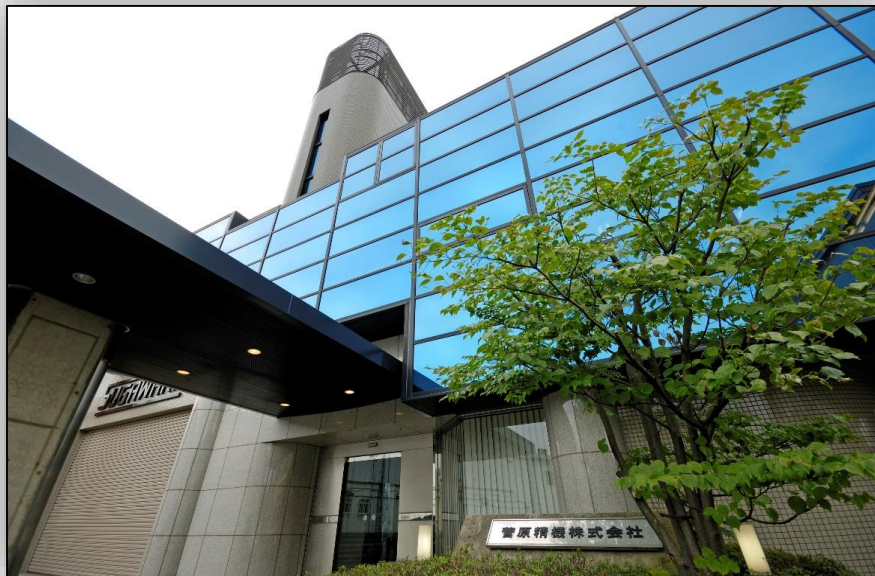


菅原精機株式会社

2016 年度環境活動レポート

(対象期間:2016年8月1日 ~ 2017年7月31日)



作成日：2017年10月20日

□ごあいさつ

長年にわたり、つねに時代の最先端ニーズに対応する高精度の金型製品を生み出してきた菅原精機株式会社。その技術力は、精密機械や電子部品など世界が注目する日本のモノ作りの現場を根底で支えてきたといえます。そしてこの度、従来からの環境活動をさらに積極的に展開すべく、下記の環境方針を掲げ「地球環境にやさしい会社」作りを目指し全社一丸となって取組んできました成果を環境レポートにまとめましたのでご高覧いただきますようお願いいたします。

菅原精機株式会社
代表取締役 菅原 尚也

環境方針

菅原精機株式会社は、粉末成形用精密金型製作メーカーとして、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用が人類共通の重要課題と考えています。当社の金型製品製造等の事業活動における環境負荷への低減や、当社の金型製品が社会に貢献できるよう、全社一丸となって自主的、積極的に、環境への取組を進めてまいります。

<環境保全への行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。
 - ① 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減。
 - ② 使用原材料の省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)の推進。
 - ③ 水資源の節水
 - ④ 化学物質の適正な管理の定期的確認
 - ⑤ 事務用品のグリーン購入
 - ⑥ 環境配慮製品用金型の受注

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的に改善に努めます

2. 環境関連法規制や当社が約束した事を遵守します。
3. 社員一人ひとりが環境問題に関する認識を深め、周辺地域の環境保全活動に取り組みます。
4. この環境方針は、全社員に周知徹底するとともに、社外にも開示します。

制定日： 2007年8月1日
改定日： 2010年8月1日
代表取締役社長 菅原 尚也

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

菅原精機株式会社

代表取締役社長 菅原 尚也

(2) 所在地

本 社 京都府京都市山科区栂辻西濱町 8

倉 庫 京都府京都市山科区栂辻西濱町14

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務課長 船越 勝 TEL : 075-581-7121

担当者 総務部 船越 勝 TEL : 075-571-7121

(4) 事業内容

粉末成形用精密金型製造・粉末成形用ロータリープレス機製作

(5) 事業の規模

製品出荷額 16.1 億円

0

	本社	工場棟	倉庫	0	0	合計
従業員	89	9	無人	0	0	98
延べ床面積	3002	222	434	0	0	3658

(6) 事業年度

8月1日～7月31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 菅原精機株式会社

対象事業所： 本社

活動： 粉末成形用精密金型製造・粉末成形用ロータリープレス機製作

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	619,261	615,013	595,577
廃棄物排出量	kg	11	11	10
一般廃棄物排出量	kg	4	3	4
産業廃棄物排出量	kg	7	8	6
総排水量	m ³	1,522	1,626	1,558
※電力の二酸化炭素排出量換算値		0.509 kg-CO ₂ /kWh		

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準値 (基準年度)	2016年		2017年 (目標)	2018年 (目標)
			上段:通年			
			中段:期初～〇月まで (目標)	(実績)		
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	610,179	591,874	587,875	591,874	585,772
	基準年比	2015年	97%	96%	97%	96%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	2,579	2,502	3,380	2,489	2,476
	基準年比	2015年	97%	131%	97%	96%
上記二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	612,758	594,376	591,255	594,363	588,248
一般廃棄物の削減	kg	2,103	2,100	1,992	2,082	2,061
	基準年比	2015年	100%	95%	99%	98%
水道水の削減	m ³	1,626	1,610	1,558	1,593	1,593
	基準年比	2015年	99%	96%	98%	98%
グリーン購入の推進	%	金額から比率に変更し	60%	56%	60%	60%
省エネ・省資源の提案活動	件	29	60	104	60	60
	基準年比	2015年	206%	359%	206%	206%

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標:○達成 ×未達成

活動:○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	平成29年5月にチラーユニットの交換を実施した。その効果が6月、7月の使用量の削減に繋がった。設備更新の効果と節電意識の徹底で年間目標を捉えることが出来た。52期についてはLED未切替部分のLEDへの切替を推進し全館LED化を完成させ、最終的には新電力への切替も視野に入れ、CO2の削減に取り組んで生きたい。
・空調温度の適正化(冷房24℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯	○	
・リフレッシュデーの実施	○	
・作業改善・業務改善の推進	△	
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	×	営業車両2台の走行距離は2015年度の22千kmから2016年度の29千kmと約32%増と大幅に増えた。ガソリン使用量もそれに比例して増加したため、目標については大幅な未達の状況。2017年度目標については、基準年度対比3.0%減と2016年度目標のままとし、引き続き省エネ運転を心がける
・アイドリングストップ	○	
・省エネ運転の徹底	△	
・冷暖房の控えめ使用	△	
一般廃棄物の削減		
数値目標	○	平成29年4月にコバルト使用ゴミを産業廃棄物として分別した影響で、一般廃棄物が大きく減少した。しかしながら、関係各所に確認した結果、一般廃棄物処理可能ということで7月に一般廃棄物として集中持ち出したため7月単月は目標未達となったが、その他の分別は徹底しており年間目標は達成した。引き続き分別を徹底し削減に努めていく
・可燃物の削減	○	
・分別の徹底	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	△	
・梱包材の再利用	○	
水道水の削減		
数値目標	○	前期中の漏水工事完了後使用量は確実に減少しており、2016年度についても安定的に推移した。2015年度対比で4.2%減、目標対比で3.1%と目標達成できた。引き続き節水意識向上を心がけたい。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
グリーン購入の推進		
数値目標	×	期後半でグリーン購入比率を高水準に持っていったが通期では56%と目標未達に終わった。今後については一層意識を高め目標を捕らえていきたい。
・事務用品グリーン購入比率向上	△	
省エネ・省資源の提案活動		
数値目標	○	社員の関心が高まり、応募累計は104件、目標達成率は359%と大きく目標をオーバーした。来期についても各部署で応募を勧奨し多くの応募に繋げて生きたい。
・提案制度の抜本的改革を実施する。	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属 ^ス 、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	空圧機、送風機
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機
消防法	危険物の保管
顧客要求事項	化学物質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等はこれまでありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

二酸化炭素排出量削減をはじめ環境に配慮した経営を行うことが社会の強い要請となってきた。その中で計画的な空調設備の更新による使用電力量の削減と節電意識の高まりで電力による二酸化炭素削減目標を達成したことは大きく評価できる。今後については二酸化炭素排出係数もにらみながら新電力への切替も模索していく。自動車燃料は已む無いところもあるが引き続きエコ運転に注力し削減に取り組んでいく。提案活動については制度改革の効果が大きかったが、一過性に終わることなく継続的な運動となることに期待する。全社的に削減意識は高まっており、引き続き無駄の排除、工夫によって環境に配慮した経済活動を実施していきたい。

□環境活動の紹介

平成28年10月 山科美化推進企業協議会の河川清掃に参加